

寛政五癸巳歳旦

右稀々たるいふが書成むらう思ふ

稀なりとさねのゝをせし男

春貞

芥子つむ翁や海もとぬあふし

子守歳

おとこ一ふまれば一ちえは里へ杖曳方山居士とて  
経得もろくも一ぬ雪の号と同門東塙へ譲り毛  
道を傳へるはさうり妙恩を謝はのゝ僕ハ古よ  
あふれ号子立傳ふと新く一乃物さハ可一お中  
閑哉とてふもを茶ふりとを宛めたり

尺五菴

判ちの心名一あふぬるの在り

萬奴

